

いちはし ともこ

【みらい賞】 市橋 健子

愛する茂へ時空を超えて届いてほしいと願いながら
今私は宛先のない手紙を書いています。

病を背負って生まれても神様は育ててくれるところに授けると
さらっと言ったやさしい言葉 重く受け止めています。

48才短い人生だったね。ごめんね。

そちらでやりたい事やれていますか。穏やかに過ごしていますか。
私は君がみることのなかった世界を哀しみと共にまだ生きています。

4年経った今も涙は枯れることなく流れます。

今まであたり前のように側にいたきみが逝く 急に締めつけられる寂しさ、
顔を抱え へたりそうになるほどの寂しさ。

ああ!!と思わず声をあげてしまう寂しさに耐えています。

48年間一緒に暮らし言いたいことを言って沢山喧嘩もしましたね。

でも先に謝るのは茂。そのやさしさに甘え威張っていた私 後悔の毎日です。
ごめんね。

君のいない日々すりきれるほど流した涙 君の死を消してしまいたいけれど
スイッチがみつかりません。

空っぽの心で過ごしている私のそばで時はなにごともなく過ぎています。

もう一度君に会いたい!!

この手紙はどこへ出せば君に届くのでしょうか。

(東京都／87歳／女性／主婦)